



さいたま新都心に一番近い学校

平成30年1月号

平成30年1月9日

さいたま市立下落合小学校

電話 852-2280

FAX 852-0188

下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

新しい年にも福がきますように

校長 稲垣克行



新しい年がスタートしました。ご家庭・地域では、おだやかで、すがすがしい新年を迎えられたことと思います。今年の干支は、11番目、「戌（いぬ）年」です。十二支の「戌」は、方角では西北西、時刻は午後8時ごろ、戌年は、勤勉で努力という意味があるようです。努力で子どもたちが着実に成長する年になればと願っています。

さて、新年の行事として、各家庭で恒例になっていることがあると思います。その一つに初詣があります。我が家も昔は家族全員で初詣に行きましたが、子どもたちは大きくなり、家を出て自活していたり、学生生活を謳歌していたりと自由に過ごしています。最近では気楽に一人で行くようになりました。その初詣について、若いときから心がけていることがあります。例えば、子どもの受験のときは、「合格」をお願いするのではなく、「子どもの努力する気力が続きますように」と願いました。また自分のことについては、「〇〇についてあきらめず、最後まで努力します」とお願いというより、誓いを立てるようにしています。お願いだけでは何か虫がよすぎるようで、自分や家族の成長のためにはならないような気がするからです。

ある書物の中に、新年「新」と幸福の「福」の字についての考察がありました。「新」は「辛」と「木」と「斤（おの）」の組み合わせです。「辛」は努力するという意味があり、「斤（おの）」を使って苦労し努力し「木」を切り、「新」しいものを作り活用する。「福」という字の示偏（しめすへん）は、神を意味し、神の前に、旁（つくり）である米俵を積み重ねた状態です。自分の苦心や努力によって得た幸（さいわ）いを「福」というそうです。



新年にあたり、「子どもたちが『分かる、できる』だけでなく、その前の、努力することの尊さが感じ取れる教育活動を大切にします。」と、今年の初詣で願（誓）いました。子どもたちの「新」しい年に「福」が来るよう、本年も保護者・地域の方々のご理解と更なるご協力をお願いいたします。

<6年生のみなさんへ(中学校進学準備を)>

6年生にとっては、卒業の学期となりました。願いは、「中学校という新しい環境と価値観の中でうまくスタートを切ってほしい。」ということです。中学校では、子ども扱いはなくなり、言葉使い、先輩後輩のマナーなど社会的な常識が常に要求されます。そして、自らの判断を求められることが多くなり、個人の自由度は増えますが、自分の言動に対する責任



について明確になる場面が多くなります。これらのことは、小学校生活の延長上にあります。6年生の担任の先生方のお話をよく聞いて、小学校最後の仕上げの学期を大切に過ごしましょう。(保護者のみなさんへ:子どもたちは、中学校生活について分かっているようで、意外と知らないものです。人生の先輩として、ご自分の中学校生活について、子どもたちに話してあげてください。)